

# 日本剣道日本

2003  
No.325

3

## 特集 昇段審査 合格の秘訣

昇段につながる稽古の仕方、審査のための準備を  
合格者の体験とデータに基づいて考える。

六・七・八段、教士・錬士合格者一覧

## 頑張れ中学剣道

短期集中連載

指導者不足、部活動の沈滞と、環境が整わない中、  
現場では工夫を凝らし新しい形の指導も始まっている。  
中学生の剣道の現状をレポートし、将来の方向性を探る。

居合を志す者よ!

対談

岩田憲一×松蓬達男

剣道歴史紀行

東京

皇居界限

新・八段の修行

朝内賢光

昇竜旗争奪全国選抜少年大会  
関東女子学生新人戦大会

## 少年剣道に 一筆啓上

# 町道場は伝統ある総合型クラブ

完全学校週5日制が始まってから、「地域総合型スポーツクラブ」（以下総合型クラブ）が注目されています。文部科学省では、生涯スポーツ社会の実現のための重点施策として取り上げ、(財)日本体育協会においても、独自の育成に着手してきています。

そんな中で、私たち大町市少年剣道クラブ（以下大町剣道クラブ）の活動と、町道場のことが思い浮かびました。

一般的に総合型クラブとは、「継続性」「活動の拠点となる施設がある」「多世代・多志向・障害者・子供からお年寄り、初心者からトップレベルの選手が活動できる」「多様性」「複数の種目が開催されている」「質の高い指導者がいる」「スポーツ以外の文化活動が行なわれる」等を備えているものと構想されています。

このことを町道場に当てはめてみるとどうでしょうか。町道場といっても、現在の姿ではなく、「剣道社会体育教本」に掲載されている「剣道の源流から、戦技としての実用性を離れて、護身、修養、芸術、競技、体育、スポーツなど多様で複合的な文化として、幅広い目的と内容を持つて継承、発展、普及した」時代の町道場です。

その頃の町道場には、ヤットリの先生が、多世代の門下生に、剣術や柔術、読み書きそろばんなどを教えていました。テレビの時代でもよく目にするシーンですが、流派試合に、町の人々が道場の裏側に群がり、ヤットリの先生が町を歩く、質の高い指導者として町の

人々に慕われています。この姿こそが、総合型クラブではないでしょうか。

現在、少子・高齢化により学校の部活動が停滞し、子どもたちの放課後のニーズも多様化する一方です。既存のスポーツ団体や従来の地域スポーツクラブは、組織や運営面で普及が限界となつています。企業や業種別では企業スポーツを推進や衰退に追い込んでいます。地方自治体の予算事情も悪く、行政主催のイベントは、参加者の確保や満足させる企画の提供に限界をえています。このようなマイナス課題を目的の当たりにするために、今こそ、町道場が伝統ある姿に立ち返り、地域と一体となり、地域の連帯感を醸成することが、ひいては地域の人と文化を創造し、全国に発信できるものと考えます。

私たちは、剣道を通じ、そうした社会的意義をよりはつきりとした形で実行し、魅力ある活動を展開しようではありませんか。大町剣道クラブでは、「する人、みる人、支える人」の関係が、少しずつでき上がってきています。保護者自らスポーツ活動を実践しています。年間を通じてパレーポールの練習をし、「守破離」という名前での大会に参加しています。その他、ヨットやカヌー、スキーなど四季折々のスポーツ活動も盛んです。数年前から、なぎなたに取組むお母さんの姿が見られるようになりました。自分でも剣道をやってみようとするお父さんの姿もみられます。身をもって示す大人の姿は、子どもたちの活動を今まで以上に活発なものにしてきています。保護者や先輩たちなど、支える人の力に

より、次代を担う若手指導者の育成が図られ、着実に成果となって現われてきています。

若手指導者の手により、大町剣道クラブは、「おおまち」と「ときわ」の二つのスポーツ少年団を構成するまでに発展し、それぞれが単位少年団として、独自の活動を展開しています。小学生から大学生年代のクラブ員は、稽古がしたければ、どちらの少年団の稽古にも参加することができるようになっています。

クラブ員を対象としたホームページ作成講習会の開催や大町剣道クラブの公式ページの開設も行なわれました。中・高校生への連絡や指導者間の連絡は、メールアドレスを登録し「剣道大町メールリンドリスト」で行なっています。これらは、若手指導者らしい、IT社会を代表する活動ではないでしょうか。

一昨年は第10回ハンガリー国際剣道大会に参加しました。この体験は、剣道がますます国際的に普及される中で、そのことを自分たちの肌で感じる機会となったことでしょうか。国民体育大会や全日本都道府県対抗優勝大会、全国家総編入大会の県代表選手として選ばれる指導者も育ってきています。また、町道場といえる施設ではありませんが、拠点となる施設として、自派クラブハウスを持っています。稽古を行なえる広さ

総合型クラブを目指す大町市少年剣道クラブ



はありませんが、会議の開催や懇談を深める場として活用しているほか、関係資料を一括して保管する場所ともなっています。市の夏祭りは、全員が剣道着と袴姿で行り迷に加わり、クラブハウスで出発式を行います。年末恒例のクラブ祭は、指導者や家族が参加し劇等の演し物で盛り上げられます。これらの活動は、他の団体にも影響を与え、市民の注目を集めています。

## 長野県 大町市少年剣道クラブ 木村隆一



教士七段、50歳、公務員。昭和52年に大町市少年剣道クラブを創設。公認スポーツ指導員、スポーツプログラムラーとして活動中。特に剣道を通じた青少年の健全育成と地域における生涯スポーツの推進に努めている。